

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-----|-----------|
| こども学概論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>人はみな「こども」として生きる時期を経て大人になり、また新たな世代の「こども」と共に生きている。では、そんな私たちにとって身近な存在である「こども」を説明するには、どのような視点がふさわしいであろうか。この授業は「こども」をより多面的にとらえることによって、「こども」に対する理解を深めることを目標とする。様々な時代・社会・文化における「こども」のあり方や「こども」のとらえられ方に注目し、養育者や保育者のあり方についても考察を加える。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：設題の意図を理解し、重要事項を落とさずに私見を自分の言葉でまとめることができる。</p> <p>科目試験：カウンセリングや子どもの無気力について理解を深め、自分の言葉で説明ができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>こども学は、近年注目を浴びながら発展する学問である。これまで、医学・心理学・教育学・社会学・文化人類学など様々な学問領域において、「こども」を対象とする研究がそれぞれ進められてきた。しかし、本来「こども」はひとり人間としてひとつの時代を生きる存在であるため、総体として理解される必要がある。そこでこの授業では、こども学の成り立ちを知り、諸々の学問領域に由来する「こども」に関する知見を統合することによって、「こども」の実像により近づくことを目指す。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. こども学とは何か？ 2. こども観の歴史の変遷 3. 法律とこどもの権利 4. こどもの発達・成長 5. こどもの内なる世界、見る・感じる 6. こどもの障害・病理 7. 家族のあり方の多様化とこども 8. しつけと虐待 9. こどもの学びと教育 10. カウンセリングの基本 11. 医療・福祉領域におけるこどもへの取り組み 12. こどもを取り巻く環境としての現代社会 13. こどもとメディア 14. こどもをめぐる経済 15. さまざまな状況で生きる世界のこどもたち | | |
| テキスト | | |
| <p>「こども学概論」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 特になし | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|-----------|
| 児童家庭福祉 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。併せて、子どもの人権に目を向けながら子ども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</p> <p>科 目 試 験：レポートでまとめた内容の総括として、保育士として児童家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性について習得する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>望ましい保育者となるために、子ども家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 2. 現代社会と子ども家庭福祉：少子高齢化、家族形態の変化、相対的貧困、食文化 3. 子どもの権利ー子ども観、人権擁護の歴史の変遷、児童の権利に関する条約 4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題 5. 子ども家庭福祉の制度と法体系および実施体系 6. 児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職・実施者 7. 少子化と地域子育て支援 8. 母子保健と子どもの健全育成 9. 多様な保育ニーズへの対応 10. 子ども虐待・DV（ドメスティックバイオレンス）とその防止 11. 社会的養護 12. 障害のある子どもへの対応 13. 少年非行等への対応 14. 貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 15. 子ども家庭福祉の動向と展望 | | |
| テキスト | | |
| <p>「児童家庭福祉」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（第6版）」社会福祉士養成講座編集委員会編 （中央法規出版）2016（ISBN：9784805853023）</p> | | |

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|-----------|
| 社会福祉論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 社会福祉の中で、特に子どもの人権と家庭支援について理解する。 3. 社会福祉の法律、制度、実施体系について、特に利用者支援の在り方について理解する。 4. 相談援助の方法と技術について理解する。 5. 社会福祉の世界の動向や課題について知る。</p> <p>科目試験：レポート学習した内容の総括として、保育士として社会福祉の領域に関する基本的な知識・技術・価値観について習得した結果をまとめる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| <p>石田易司：高等学校1年3ヵ月</p> | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念…共生社会を目指して 2. 社会福祉の歴史の変遷…基礎構造改革への流れ 3. 子ども家庭支援と社会福祉…日本で里親が根付かないのは 4. 社会福祉の制度と法体系…社会福祉事業法から社会福祉法へ 5. 社会福祉施設 6. 社会福祉の専門職 7. 社会保障と関連制度…子どもの貧困をどう守る 8. 相談援助の理念…当事者主体の推進 9. 相談援助の対象者…虐待をする大人、された子ども 10. 相談援助の方法…コーチング理論はどうして生まれたか 11. 相談援助の過程…評価への道のり 12. 情報提供・個人情報保護・第三者評価・苦情解決 13. 諸外国の動向…施設ゼロ宣言をした国 14. 在宅福祉、地域福祉の推進…ボランティア社会 15. 今後の福祉の在り方…福祉コミュニティづくり | | |
| テキスト | | |
| <p>「社会福祉論」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>特になし</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-----|--------|
| 相談援助 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育士に相談援助が求められる社会的背景を理解し、相談援助の方法と技術並びに相談援助の具体的展開過程について理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. 社会状況の変化と保育士の役割について理解する。 2. 相談援助の方法と技術について理解する。 3. 相談援助の具体的展開について理解する。 4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析による対象への理解を深める。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>保育者として必要なソーシャルワークに関する基本的な知識や技術を身につける。事例やロールプレイを通して学び、相談援助の基本視点とスキル等を習得する。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助の理論・意義・機能 2. 保育士の役割と相談援助 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助が求められる背景と目的 (2) 相談援助における家族支援 3. 相談援助の方法と技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 相談援助の対象と過程 (2) 相談援助の技術・アプローチ 4. 子どものケアと相談援助 5. 相談援助の具体的展開 6. 関係機関との協働 <ol style="list-style-type: none"> (1) 記録と評価 (2) 多様な専門職との連携 7. 保育所や児童福祉施設における支援の実際 8. 事例分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 虐待予防 (2) 障がいのある子どもと保護者 (3) ロールプレイ・フィールドワークなどによる分析 | | |
| テキスト | | |
| <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「相談援助[新版]」(新保育ライブラリ 保育・福祉を知る)片山義弘・李木明德編著(北大路書房) (ISBN:9784762828386)</p> <p>「相談援助」(新・プリマーズ/保育/福祉)久保美紀・林浩康・湯浅典人著(ミネルヴァ書房) (ISBN:9784623059898)</p> <p>「基本保育シリーズ 相談援助」松原康雄・村田典子・南野奈津子編集(中央法規) (ISBN:9784805852057)</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する (評価はルーブリック評価を用い行う)</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-----|--------|
| 保育相談支援 | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>1. 「子どもの育ち」につながる支援の在り方と、その意義について理解する。</p> <p>2. 保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者支援について、その特性と展開を理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. 子育て支援における保育者の基本姿勢や役割、職務内容について把握する。</p> <p>2. 子育て支援の知識及び技術を演習で身につけるとともに、実践事例等を通して具体的に理解する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>保育相談支援は演習科目である。保育原理・保育内容・相談支援・社会福祉論等々保育者として学んできた事を統合して使いこなす方法を学ぶ。保育相談支援は保育の知識及び技術を使って、子どもの最善の利益を守るため行われる支援である。保護者や子どものおかれている現状を把握し、子育て支援の在り方等を実践事例から具体的に学ぶ。また、さまざまな人々と連携した支援方法の基礎を習得する。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の子育て支援 2. 子育て支援が求められる社会的背景（社会状況の変化等）、園や保育者の役割（信頼関係等） 3. 支援の基本姿勢、倫理（子どもの最善の利益・保護者の自己決定の尊重等） 4. 支援の展開（状況把握・計画・環境構成・実践・記録・評価・カンファレンス）、職員間の連携・協働 5. 子育て支援の実際（内容・方法・技術）、支援の直接的・間接的手段（日常会話・文書・行事等） 6. 地域の子育て家庭に対する支援、虐待の予防と対応等 7. 障害のある子どもや特別な配慮を要する子ども及び家庭への支援等 8. 要保護児童等の家庭への支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解等 | | |
| テキスト | | |
| <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「相談援助 保育相談支援」笠師千恵・小橋明子著（中山書店）2014（ISBN：9784521739564）</p> <p>「子育て支援」二宮祐子著（萌文書林）2018（ISBN：9784893472847）</p> <p>「保育士・幼稚園教諭のための保護者支援－保育ソーシャルワークで学ぶ相談支援（新版）」永野典詞・岸本元気（風鳴舎）2016（ISBN：9784907537005）</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-----|-----------|
| こどもと音楽 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| こどもの音楽表現を豊かにし、こどもの成長過程に応じた発達を援助する。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| レポート：保育現場における音楽の役割を統括的に学ぶと同時に、音楽活動の指導に必要な音楽理論（特に基礎理論）をも同時に身につける。 | | |
| 科目試験：こどもの音楽表現活動を援助するために必要な基礎知識を身につける。 | | |
| 授業の概要 | | |
| 日々の保育において、音楽を活かした遊びや活動を行うために必要な基礎知識を中心に学習し、こどもに音楽の楽しさを伝えられる技術力と実践力を養う。 | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 「こどものうた」やその伴奏法の習得に必要な音楽理論（特に基礎理論）の学びとその学ぶべき内容の確認 2. 「譜表」「音名」「各種記号」の理解 3. 「音符」や「休符」の種類とその記譜方法の理解 4. 季節・行事・生活のうたを通して、様々な「拍子」とその記号の理解 5. 保育の現場での身体表現活動や、遊びに利用出来る様々な「リズム」とそのリズムパターンの理解 6. 「音階」と「調性」の基礎の学びとこどもの声の高さに合わせることが可能な移調方法の理解 7. 幼児用楽曲の伴奏に役立つ「音程」と「和音（コードネームを含む）」の理解 8. 「速度」「強弱」「曲想」といった奏法に関する記号の表記方法の理解 9. こどものための音楽教育の目標について、考察と理解 10. 幼児教育・保育における音楽の大切な役割と効果、その影響について、考察と理解 11. 「こどものうた（わらべうた、唱歌、童謡など）」について、楽曲構成の理解 12. 場面や年齢に応じた「うた遊び」や「手遊び」について、その実践方法の理解 13. こどもの1日の活動の流れと音・音楽の関係について、指導案を通しての考察と理解 14. 幼児用楽器の取り扱い方と、様々な音に触れることについて、実践と考察による理解 15. 反省事項や必要事項を見出し、それらを学習に補充する | | |
| テキスト | | |
| 「こどもと音楽」（配本テキスト） | | |
| 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） | | |
| 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） | | |
| 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館） | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 「こどものうた簡易伴奏曲付」 | | |
| 田中常雄監修、平島美穂、木村鈴代、小杉裕子編著（圭文社）（ISBN：9784874460764） | | |
| 「かんたんメソッド コードで弾きうたい 改訂版」 | | |
| 細田淳子、笹井邦彦、西海聡子、悠木昭宏、小田切舞美著（カワイ出版）（ISBN：9784760940455） | | |
| 「たのしく遊べるこどものうた 改訂版」大山美和子、田中常雄、磯貝静江、茨木金吾著（鈴木出版）（ISBN：9784790270416） | | |
| 「手あそび百科」植田光子編著（ひかりのくに）（ISBN：9784564603839） | | |

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|------|-----------|
| こどもと造形 I | 1 単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育の内容を踏まえた造形の基本的な知識の習得を目指し、手の動き・感性・造形的思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。 <p>レポ ー ト：乳幼児における造形教育の指導・援助者として必要となる基礎的知識及び技能についてテーマ毎に実技課題を設定し、形や色や質感等についての知識を理解するとともに、保育の教材となる材料や用具の取り扱いについて体験的に習得できる。</p> <p>科 目 試 験：保育の内容を踏まえた造形教育における創造性等の基礎的知識と、造形活動の際に取り扱う保育教材や道具・用具の使用方法、色彩など、造形知識の習得ができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとにした色彩分割及び構成学習を行う。また具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、こどもの造形あそびに関わる手法研究を行う。その他、日用品や廃材等を使用して、素材の質感に触れながら感受性を磨き、創意工夫をして材料を貼りつける製作を行う等、平面及び立体における造形教育を展開するために必要となる知識や技術について体験的に理解する。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児造形における発達過程の特徴及び指導・援助について 2. 形態の分割構成・色彩の配色構成の理論と実践 3. 絵画技法及び描法について（各種表現技法を用いた製作） 4. 立体造形における技法と活用（素材・廃材を使用した立体造形の製作） 5. 教材研究Ⅰ（えがく活動における製作） 6. 教材研究Ⅱ（つくる活動における製作） 7. 教材研究Ⅲ（造形あそびにおける製作） 8. 美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 市販の造形に関する書籍等 | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|---------|
| こどもと造形Ⅱ | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育の内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また、乳幼児を含めたこどもの造形の指導・援助者として、造形教育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. 乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。</p> <p>2. えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。</p> <p>3. 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児造形教育の重要性と研究の視点について 2. 幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について 3. えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際） 4. つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際） 5. 造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際） 6. 作品の研究及び発表 7. 幼児造形教育の課題について 8. まとめ | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと造形Ⅰ」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 市販の造形に関する書籍等 | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用い行う）</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|-----|-----------|
| こどもと体育Ⅰ | 1単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>こどもの運動遊びは、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。そのことから、遊びの中で、豊かな体験を通して、何を感じ、何に気づき、何が分かって、仲間とどのようにして遊ぶのかを体感し感じとらせるために多くの体験ができる環境設定が大切であることを理解する。また、こどもの発育発達に即した運動能力を考慮し、年齢や環境に応じた基本的な動きや運動遊びを身に付けるとともに、遊びを通してこども同士がどう工夫し、表現し、仲間とよりよく関わっていくことができるかを学習し、こども達が健康・安全に遊ぶために遊具の安全性についても認識を深める。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポート：運動遊びにおける援助者の役割について理解し、人的環境について説明するとともに、集団遊びと発育発達について保育者の立場で自分の考えを持つことができる。</p> <p>科目試験：こどもを取り巻く生活環境の変化は、様々な面から発育発達に大きく影響を及ぼしていることから、戸外での運動遊びや心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し、各種の問題に取り組むことができるようにする。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>こどもの運動遊びや必要性を年齢に応じた発育発達の面から理解し、図・表、作成遊具や運動遊びの実践例から具体的なイメージを膨らませ、安全に楽しく遊びが展開できる知識を理論的に深める。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的背景を考慮しつつ <ol style="list-style-type: none"> ①地域社会、社会環境の変化について ②遊び空間、時間、遊びの仲間、遊び方法の変化について 2. こどもの発育と運動遊びについて <ol style="list-style-type: none"> ①身体・形態・機能・こころの発育発達 ②こどもの運動能力と運動技能の発達 3. 基本的な動き <ol style="list-style-type: none"> ①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登） ②運動の機能（調整力：身体認知・空間認識） 4. 用具を使わない遊び <ol style="list-style-type: none"> ①年齢発達における遊び（ふれあい遊び、ごっこ遊び等） ②グループ遊び（おおかみさん、はないちもんめ、鬼遊び等） 5. 小型遊具を使った遊び <ol style="list-style-type: none"> ①個人での競争遊び（縄跳び、輪投げ、フープくぐり遊び等） ②グループでの競争遊び（おいかげっこ、ティーボールラン等） 6. 操作性遊具や器具、身近な素材活用遊び <ol style="list-style-type: none"> ①操作性遊具・器具活用遊び（ボール、フープ、縄、棒活用遊び等） ②身近な素材活用遊び（新聞紙、タオル、段ボール、ペットボトル遊び等） 7. 野外での幼児の遊び <ol style="list-style-type: none"> ①野外活動の教育的意義と実践上の理解 ②野外活動の実践（砂・泥・川遊び、雪・そり遊び、プール遊び、キャンプ等） 8. 遊びと安全管理 <ol style="list-style-type: none"> ①安全管理について（安全の考え方、物的管理、人的管理・援助指導における安全性の配慮、野外活動における安全面配慮、移動遊具・固定遊具の点検と活用時の安全配慮 等） | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと体育Ⅰ」（配本テキスト）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|--|--------|
| こどもと体育Ⅱ | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>運動遊びとこどもの成長発達との関係を理解し、運動遊びの種類と遊びのどの局面がこどもの心と体や社会性の成長・発達にどのように役立つのかを理解し具体的な援助方法を習得する。同時に、こどもが楽しく、安全に遊びや運動遊びに取り組むための人的・物的環境について理解を深める。</p> <p>《学習成果》</p> <p>スクーリング：1. こどもが主体的に遊びに取り組める援助方法を習得する。 2. 演習で取り扱う運動遊びと成長発達の関係を理解する。 3. 運動遊びと運動機能・体力の関係を理解する。 4. 演習で取り扱う運動遊びを習得する。 5. 運動遊びを楽しく、安全に実施する環境づくりを学ぶ。 6. 運動遊びで培われる体と心、社会性を理解する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>発達段階に応じた運動遊びを準備し、グループ毎での発表を通して、理解を深め、同時にこども達が自主的に楽しく且つ安全に展開する援助方法を学ぶ。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| 1. オリエンテーション（講義） | ①自然での遊び（水遊び、雪遊び等） ②戸外、森などでの遊び | |
| 2. 固定遊具の遊び | ①すべり台、ジャングルジム ②ぶらんこ、シーソー | |
| 3. 遊具を使った遊びⅠ | ①小さいボール、柔らかいボール ②大きいボール、様々なボール | |
| 4. 遊具を使った遊びⅡ（身近な遊具） | ①フープ、輪、ロープ ②新聞紙、タオルなど | |
| 5. 大型遊具を使った遊び | ①マット、平均台、跳び箱運動 ②複数の遊具の組み合わせによる運動 | |
| 6. サーキット遊び | ①小型遊具を組み合わせたサーキット遊び ②大型遊具を組み合わせたサーキット遊び | |
| 7. 身体の実現による伝承遊びⅠ（遊具を使わない） | ①鬼遊び、わらべ歌など（小身体活動） ②ケンケンパー、馬跳びなど（大身体活動） | |
| 8. 身体の実現による伝承遊びⅡ（遊具を使った） | ①おはじき、独楽遊び、お手玉遊び、けん玉遊び等 | |
| テキスト | | |
| <p>「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 特になし | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|-----------|
| こどもと文学 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>「子どものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる」(西本鶏介)のものであると言われる。このように言われ生涯にわたる人間性を培う子どもの文学についての理解を深め、子どもにとり成長の糧となりうる一冊の選択肢を養うことを目的とする。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：児童文学について、重要事項を落とさずに自分の考えをまとめることができる。</p> <p>科目試験：グリム童話、アンデルセン童話、「赤い鳥」について自分の考えをまとめることができる。</p> <p>児童文学、絵本について理解を深めることができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>具体的な作品を題材として、作者が子どもに託したメッセージ、先人の機微などを子どもの生活経験と照らし合わせながら分析する。また、小学校の国語の教科書に載せられている作品も取り上げる。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 児童文学概論 2. 児童文学の形式 3. 世界の児童文学史 グリム童話、アンデルセン童話 4. 日本の児童文学史 「赤い鳥」 5. 世界の絵本の歴史 6. 日本の絵本の歴史 7. 絵本とは 絵本の種類 (赤ちゃん絵本、物語絵本、知識絵本、民話絵本、障がいを持つ人を理解する絵本、戦争と平和を考える絵本の特質と紹介) 8. 昔話(伝承童話・民話・伝説・神話) 9. 小説(少年少女小説・歴史小説・空想小説・科学小説) 10. 童話、少年少女詩、戯曲、ノン・フィクション 11. 子どもと絵本(絵本の必要性和選び方) 12. 子どもと読書活動 読み聞かせの具体例、留意点 13. 子どもとお話(お話の必要性和選び方) 14. 幼児教育と小学校・中学校教育の連続性 15. 子どもに与える1冊の絵本・物語を考える。 | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもと文学」(配本テキスト)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「てぶくろ」エウゲーニー・M・ラチョフ絵 / 内田莉莎子訳(福音館書店)(ISBN:9784834000504)</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する (評価はルーブリック評価を用いる)</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|-----------|
| 家庭支援論 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>家庭の意義とその機能について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。近年、多様化する子育て家庭のニーズの把握と子育て家庭の支援体制について把握する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：1. 家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 3. 子育て家庭の支援体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 5. 特別なニーズをもつ子育て家庭への支援について理解する。</p> <p>科目試験：レポート学習した内容の総括として、家庭の機能をふまえた様々な子育て家庭支援について習得する。保育士として家庭支援の領域に関する基本的な知識・技能・人間性について習得する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し、保護者支援の在り方を家庭という視点から明らかにしていく。問題を抱える家庭に対する支援等、社会的家庭に関する基本的な知識、家庭支援の専門性等について学ぶ。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭支援の意義と役割 2. 家庭の意義と機能 3. 家庭支援の機能 4. 保育士等が行う家庭支援の原理 5. 家庭生活を取り巻く社会的状況① 6. 家庭生活を取り巻く社会的状況② 7. 家庭生活を取り巻く社会的状況③ 8. 子育て家庭の支援体制① 9. 子育て家庭の支援体制② 10. 子育て支援サービスの概要 11. 保育所入所児童の家庭への支援 12. 地域の子育て家庭への支援 13. 要保護児童及びその家庭に対する支援（特別なニーズをもつ子育て家庭への支援） 14. 子育て家庭支援における関係機関との連携 15. 子育て支援サービスの課題 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の家庭における人間関係 ・地域社会の変容と家庭支援 ・男女共同参画社会とワークライフバランス ・子育て家庭の福祉を円滑するための社会資源 ・子育て支援政策・次世代育成政策の推進 | | |
| テキスト | | |
| <p>「家庭支援論」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「子ども家庭支援論（保育者養成シリーズ）」谷田貝公昭監修（一藝社）2020年3月発行版 （ISBN：9784863592087）</p> <p>「実践子ども家庭支援論」松本園子、永田陽子、福川須美、森 和子著（ななみ書房）2019年9月発行 （ISBN：9784903355788）</p> | | |

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|-----------|
| こどもの保健Ⅰ | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>① こどもの健やかな成長・発達が生涯にわたる健康の基盤づくりとなることを理解する。</p> <p>② こどもに影響を及ぼす家族の特性、背景にある社会の特性を理解しながら関係機関との連携について学ぶ。</p> | | |
| ≪学習成果≫ | | |
| <p>レポート：設題に対してポイントを押さえて学習でき、小児の健康の必要性が理解できるようになる。</p> <p>科目試験：健やかな成長発達を促すために、こどもの健康に対する基礎的な知識を理解し、健康を阻害する要因に積極的に取り組むことができる力を養う。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>小児保健を統計学的視点や母子保健との関連性からも捉え、こどもの各期の発達、成長の特徴を理解する。また、こどもの健康課題や日常保育の中で起こる事象に対して速やかに対応できるように学習する。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健・母子保健統計から、近年のこどもの健康問題を理解 2. 健康の概念と子供の保健 3. 児童虐待の理解と防止 <ul style="list-style-type: none"> ・養育者の環境、家族支援 4. こどもの生理機能・運動機能・精神機能の発達と発育の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・精神発達の学習においては、情緒的発達にも着目 5. 身体の障がいのあるこども・家族支援 6. 精神の障がいのあるこども・家族支援 7. 心身の障害を持っているこどもや家族の地域における支援体制 8. 予防接種の意味と種類・効果 9. 予防接種の救済制度と支援 10. 保育環境の衛生管理 11. 事故防止と救急処置 12. 安全対策と危機管理 13. 家庭・専門機関・地域との連携の重要性 14. 現代社会における育児支援のあり方 15. 保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領における小児の保健 | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもの保健Ⅰ」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「よくわかる・子どもの保健」第3版 竹内義博他編（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623073436）</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|--|-----|-----------|
| こどもの保健Ⅱ | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>こどもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践能力を高めることにある。成長とともに行動範囲も拡大、集団保育の中での感染等の健康安全管理について理解する。予防対策の取組みについて、他職種間との連携・協働の下での適切な対応について理解する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：設題についてポイントを押さえて学習し、適切な対応ができる知識を養う。</p> <p>科 目 試 験：日常的に遭遇する病気や突発的な病気、事故に対して、適切な対応ができる力をつける。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>こどもの疾病について具体的な対応や支援の在り方を学習する。また、こどもの病気を早期発見できる観察力を養うとともに、適切な対応ができる力を身に着ける。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. こどもの生活習慣と病気との関係：食生活、歯の健康管理の必要性 2. 日常よくみる症状について；嘔吐・腹痛・頭痛・便秘・下痢・不機嫌等 3. 日常よく見る病気の対応について：感染症（食中毒含む） 4. 体調不良のこどもの対応について：なんとなく元気がない・不機嫌等 5. アレルギーのある子どもへの対応について：食物アレルギー・アトピー体質・喘息等 6. 小児感染症の予防と対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎知識・法律についての理解 2) 日々の手洗いの重要性、環境整備と消毒 7. 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 児童虐待が疑われる子どもへの対応 2) アナフィラキシーの既往のある子どもへの対応（補助薬剤の取り扱い等） 8. 気になる子どもへの対応 9. 事故防止・災害への備えと組織的な取り組み 10. 救急処置・救急蘇生法の理解 11. 感染症発生時の対応：施設における安全対策の机上シミュレーション等 12. 施設における、災害時の危機管理対策 13. 病後児保育の対応について（薬の取り扱いについて） 14. 事故防止と安全教育：家族と連携施設との協働 15. 「校内演習」と振り返り | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」（配本テキスト）</p> <p>「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「よくわかる・子どもの保健」第3版 竹内義博他編（ミネルヴァ書房）（ISBN：9784623073436）</p> | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用い行う）</p> | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|--------|
| こどもの保健Ⅲ | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>こどもがかかりやすい病気について、具体的な対処法や予防について学ぶ。 保育中における事故や体調不良時の対応について理解を深め、病後児保育や緊急時の対応ができるように演習を通して学ぶ。</p> <p>《学習成果》 スクーリング：こどもの健康管理について理解を深め、演習を通して対処の実践力を高める。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>こどもの保育に対しての危機管理意識を高め、日常的な病気の対応や事故や緊急時における対処方法を理解し、保育現場で対応できる力を養う。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体計測の演習と評価 2. 観察項目「バイタルサイン」の測定の仕方の演習と評価 3. 日常の保育に必要な養護技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) だっこ・おんぶ・食事（調乳）・口腔内の清潔、身体の清潔保持（沐浴）衣服の着脱 2) 排泄の援助とトレーニング（おむつの当て方等） 4. 一般的な症状に対する看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 発熱・泣き方・咳・頭痛・腹痛・嘔吐・便秘・下痢 等 5. 病気の対応と予防：感染症（ウイルス・細菌性）（食中毒） <ol style="list-style-type: none"> 1) 手洗いの必要性和手洗いの実習 6. 応急処置・救急法 包帯・三角布を使って演習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 具体的な症状の応急処置：意識障害・出血・外傷・熱傷・熱中症・鼻出血・異物・アレルギー体質のこどもに対する対応 2) 人形をつかって一次蘇生法の演習・救急車の呼び方 等 7. 保育施設での安全管理対策と地域との連携と協働 8. 個別的な配慮を要するこどもへの対応（アレルギー性疾患・慢性疾患等） | | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館）</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 適時資料配布 | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する （評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | |

| 授 業 科 目 名 | 単位数 | 学 習 形 態 |
|---|------|-----------|
| 保 育 原 理 | 2 単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>保育原理では、保育・幼児教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポ ー ト：乳幼児の健康と安全な生活について理解し、自分の言葉で述べるができる。 保育における個と集団への配慮について、具体的な事例を用いて述べるができる。</p> <p>科 目 試 験：保育の意義を理解し、自分の言葉で述べるができる。 遊びの定義及び乳幼児期の重要な学習として「遊び」が位置付けられている理由について述べるができる。 家庭的保育事業について法令を交えて述べるができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>保育原理では、子どもをとりまく環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関する認識を深める。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育とは何か(1) 保育の意義と目的 2. 保育とは何か(2) ①子どもの最善の利益を考慮した保育 ②保護者との協働 3. 保育とは何か(3) ①保育の社会的意義 ②保育所保育と家庭的保育 4. 保育所保育指針における保育の基本(1) ①保育の目標と方法 ②養護と教育の一体性 5. 保育所保育指針における保育の基本(2) ①環境による保育 ②発達過程に応じた保育 6. 保育所保育指針における保育の基本(3) ①子どもの健康と安全と保育計画 ②保護者に対する支援 ③倫理観に裏付けられた保育士の専門性 7. 保育の質を高めるための方法(1) 望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う 8. 保育の質を高めるための方法(2) 生活と遊びを通して総合的に行う保育 9. 保育の質を高めるための方法(3) 保育における個と集団への配慮 10. 保育の思想と歴史的変遷(1) 欧米の保育思想の展開と保育施設の発展 11. 保育の思想と歴史的変遷(2) わが国における保育の歴史的変遷 12. 保育の制度(1) ①保育所について ②幼稚園について 13. 保育の制度(2) ①認定こども園について ②家庭的保育事業について 14. 保育の現状と課題(1) 日本の保育の現状と課題 15. 保育の現状と課題(2) 外国の保育の現状と課題 | | |
| テキスト | | |
| <p>「保育原理」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼稚園教育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 特になし | | |

学生に対する評価

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|-----------|
| 社会的養護 | 2単位 | レポート・科目試験 |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| レポート：今、実際に起こっている子どもの貧困、虐待と里親制度の課題について説明できる。 科目試験：社会的養護の体制と、それに大きな影響を与えた子どもの権利条約について理解できている。 | | |
| 授業の概要 | | |
| 望ましい保育者になるために必要な社会的養護の基本的な知識、専門性、価値観を身に付ける。 | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的養護の理念と概念 2. 社会的養護の歴史の変遷 3. 子どもの人権擁護と社会的養護 4. 社会的養護の基本原則 5. 社会的養護における保育士等の倫理と責任 6. 社会的養護の制度と法体系 7. 社会的養護の仕組みと実施体系 8. 社会的養護の対象 9. 家庭養護と施設養護 10. 社会的養護に関わる専門職 11. 社会的養護に関する社会的状況 12. 施設等の運営管理 13. 被措置児童等の虐待防止 14. 社会的養護と地域福祉 15. 保育現場における社会的養護の現状と課題 | | |
| テキスト | | |
| 「社会的養護」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館） | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 特になし | | |
| 学生に対する評価 | | |
| 学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する （評価はルーブリック評価を用いる） | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|--|------------------|
| こどもの食と栄養 | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>ヒトが動物としてまた、人間らしく生きていくために何をどのように食べるべきなのかという基本を理解する。その上で、それを暮らしの中にどのような具体的形で、子どもたちに伝えていくのかということをしつかりと理解し考え、身に付ける。</p> <p>《学習成果》</p> <p>レポート：小児期における栄養や食生活の重要性を理解し、起こりやすい食行動上の問題を挙げ、その対応方法について考える。</p> <p>科目試験：1. 母乳栄養と利点や問題点を理解し、調整粉乳の種類、用途、特徴を理解する。 2. 成長や発達に欠かせない栄養素の体ではたらきを理解する。 3. 離乳の必要性や離乳食の役割を知り、離乳をどのように進めていくのか理解する。</p> <p>スクーリング：1. 健康な生活の基本としての食生活の意義及び基本的知識を学ぶ。 2. こどもの発育発達にあわせた食生活とその意義実践について理解する。 3. 食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、それを活かして活用するための力をつける。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 5. 特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. レポート課題・単位認定試験出題課題を中心に、テキスト・参考図書だけではなくより広い視点からこどもの食と栄養について深く理解する。 2. スクーリングを通して学習成果に対する学習の理解を深め、実践力をつける。 3. 普段からあらゆる視点でこどもの食と栄養について興味関心を持ち、質問用紙等を活用して向上心を持って高い資質を身につける。 | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業 | | |
| 【通信授業】 | 【面接授業】 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養に関する基本概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成および食品についての理解 3. ライフステージ毎のこどもの発育発達と食生活についての理解 4. こどもの食生活の現状と課題についての理解 5. 食育実践のための基礎知識 6. 保育所食育指針および食育基本法の理解と実践のための計画評価環境整備 7. 特別な配慮を要する子どもへの対応 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養の基本的概念と栄養素についての理解 2. 食事摂取基準・献立作成及び食品についての理解 3. こどもの発育・発達と食生活 1) 離乳期 4. こどもの発育・発達と食生活 2) 乳・幼児期 5. こどもの発育・発達と食生活 3) 学童・思春期 6. 「楽しく食べるこどもに」の実践のための食育の基本と内容 7. 食育の実践のための基本的知識の理解と実践法 8. 特別な配慮を要する子どもへの支援 | |
| テキスト | | |
| <p>「こどもの食と栄養」(配本テキスト)</p> <p>「保育所保育指針解説」(最新版)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」(最新版)(フレーベル館)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| <p>「子どもの食と栄養演習」[第3版] 小川雄二編著(建帛社)(ISBN:9784767950518)</p> <p>「子どもの食と栄養」堤ちはる著(萌文書林)(ISBN:9784893471543)</p> | | |

学生に対する評価

【通信授業】

学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

【面接授業】

科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する
(評価はルーブリック評価を用いる)

※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|--|---|------------------|
| 障害児保育 | 2単位 | レポート・科目試験・スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>レポート：発達障害を理解し、統合保育（教育）について自分の考えを持つことができる。</p> <p>科目試験：障害者福祉の歴史を理解し、地域の中で障害児を支援するネットワークを理解することができる。</p> <p>スクーリング：障害を正しく理解し、コミュニケーション、リーダーシップなど、障害児保育をするうえで必要な力を身に付ける。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| 個々の障害特性を理解し、障害児だけでなく、統合保育の視点で、保育者として必要な力を身に付ける。 | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 授業計画 テキストによる通信授業とスクーリングによる面接授業 | | |
| 【通信授業】 | 【面接授業】 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念と障害児保育の歴史の変遷 2. 障害のある子どもとの統合保育と地域社会への参加 3. 差別解消と合理的配慮 4. 身体障害児の理解と支援 5. 知的、発達障害児の理解と支援 6. その他の障害児の理解と支援 7. 支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、子ども同士） | <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児のコミュニケーション 2. 障害児と遊ぶ1 3. 障害児と遊ぶ2 4. 障害児保育の健康と安全 5. 統合保育の活動 6. 支援体制づくりのために 7. 障害児の支援計画 8. 障害児保育の現状と課題 | |
| テキスト | | |
| 「障害児保育」（配本テキスト） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレール館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレール館） | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 特になし | | |
| 学生に対する評価 | | |
| 【通信授業】 | 【面接授業】 | |
| 学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する（評価はルーブリック評価を用いる） | | |
| 科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用いる） ※科目試験50%、スクーリング50%の平均により成績評価を行う | | |

| 授業科目名 | 単位数 | 学習形態 |
|---|-----|--------|
| 地域ボランティア | 1単位 | スクーリング |
| 授業のテーマ及び学習成果 | | |
| <p>地域コミュニティに参加し、ボランティア活動に関する基本的知識、考え方を身に付けるとともに、活動が持つ社会的役割を理解し、社会貢献について考える。地域、人とのつながり、かかわりを持つ中で、自分自身の人間的な成長の契機とする。地域社会にある課題・問題へ目を向けながら、“自分には何ができるか、できることはないか”を問い掛け、保育者として主体的に地域へ参与することの意義を学んでいく。そして将来、地域社会を担っていく人材として求められる「個人の尊厳」や「社会連帯」の理念に関する認識を深めることによりさまざまな力の育成を目指す。</p> | | |
| 《学習成果》 | | |
| <p>スクーリング：1. ボランティアの本質、活動の意義を理解したうえで、社会、地域への貢献について考えを持ち、説明することができる。</p> <p>2. ボランティア活動の経験から、わき起こった思考、感情に目を向けながら、自分自身の変化について言葉にすることができる。</p> <p>3. 多様なボランティア活動の事例について知り、人や地域社会とのつながり、かかわりについて、自分自身の考えを述べるすることができる。</p> <p>4. 受講生とボランティア体験を共有する学び合いから自己省察し、人間的な成長の契機とすることができる。</p> | | |
| 授業の概要 | | |
| <p>学びの場は、目の前ばかりでなく、地域社会に広がっている。地域のボランティア活動を通して、得る学びはかけがえのないものである。</p> <p>「ボランティアとは」「ボランティア活動とは何か」といった本質的な部分から授業を進め、“人と人のつながり、かかわること”とは、何であるかについて改めて考えながら、今後の社会生活、職業生活における、人間関係力などについて、学びを深めていく。また、地域コミュニティの一員として、自分の生活する社会において起こる問題や課題に気付くことで、今後の地域社会とのつながり、かかわりについて考える。事後指導において多様なボランティア活動の事例や受講生のボランティア体験を共有し、その中にある思考、価値、態度などに触れながら自己省察する。</p> | | |
| 実務経験の概要 | | |
| 近藤 章：小学校27年 | | |
| 授業計画 スクーリングによる面接授業 | | |
| <p>・ボランティア活動（30時間以上）</p> <p>1. ボランティア活動の意義及び定義について</p> <p>2. ボランティア活動の心得について</p> <p>3. ボランティア活動の事例について</p> <p>4. ボランティア活動記録の発表</p> <p>5. ボランティア活動の成果の確認と課題の考察</p> | | |
| テキスト | | |
| 特になし | | |
| 参考書・参考資料等 | | |
| 適宜紹介する | | |
| 学生に対する評価 | | |
| <p>科目の成績評価：スクーリングにおける受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する（評価はルーブリック評価を用いる）</p> | | |